

# 博物館だより



## 仏涅槃図

今井左近吉長筆  
江戸時代 縦225cm 横190cm

釈迦の入滅に際し、仏弟子・諸菩薩・諸天をはじめ鳥獣達も駆けつけ、その死を悼んだという情景を描いたもの。毎年2月15日(旧暦3月15日)に真言宗や禅宗寺院で行われる涅槃会に掛けられ、読経に続いて涅槃団子をまく行事などが行われます。

高岡・国宝瑞龍寺蔵



「射水郡上関村肝煎家文書」

平成14年11月に収蔵した博物館歴史資料「射水郡上関村肝煎家文書」という貴重な近世文書類(16点)について簡単に紹介したいと思います。

この資料は、射水郡上関村(国宝・瑞龍寺の周辺)の肝煎(前田家領における村の長。他藩の庄屋・名主)家に伝来された

と思われる史料群です。

これらの近世文書は、同村の「村御印」をはじめ、肝煎就任の願書やその経緯、用水分水に関する争い・取極めなどに大別できます。

1.「村御印」関係(3点)

「村御印」とは江戸時代前期に前田家領(現富山・石川両県)各村に配布された年貢割付状です。はじめ慶安2年(1650)に発給され、その後、加賀藩3代藩主・前田利常が晩年に行なった農政改革「改作(仕)法」が成就した、明暦2年(1656)8月1日付で発給されました(村御印御成替)。更に寛文10年(1670)9月7日付にも発給されており、これは幕府に倣い加賀藩も「新京枩」を採用し改められた(村御印御調替)もので、現存するほとんどはこの日付のものです。

上関村の「村御印」も寛文10年のものです。それによると草高(全取穫高)は691石で、新開高8石の計699石です。これは正保3年(1646)の記録による射水郡の平均村高644石と比較すると、平均的な村であるといえます。免(税率。免相とも)は「四ツ二歩」即ち42%で、小物成(米以外様々なものに課せられた雑税の総称)は鮎川役1匁となっています。またこの村御印の写しも控えのためか含まれています。

上関村の他に隣村の大野村の「村御印」の写しも肝煎という役職の参考のためか含まれています。草高は239石で、免は「三ツ五歩」即ち35%。小物成は野役(萱、肥料となる草・腐食土等)が入手できる原野があることでかけられる用益税)銀6匁です。



越中射水郡上関村御印

2.洪水関係(2点)

上関村は瑞龍寺の西、千保川右岸(西縁)にあり度々洪水(川崩れ)の被害に遭いました。明暦2年(1656)の草高は772石であったが、洪水により万治2年(1659)40石、寛文6年(1666)41石の計81石が検地により石高が引かれています。

2点のうち「千保川洪水に際し權役免除願書」は治水工事(川除普請)及び權役(その資材を運ぶ船を出す負担)が重いので、免除してほしいという願書です。上関村の肝煎から十村(他藩の大庄屋)へ、更に十村から改作奉行へ出されており、算用場奉行の裏書(表の内容の承認・保証)がなされています。

この様に災害時以外の日常にも、様々な支払い・労役・取極めなどが行なわれていたことが分かります。

3.肝煎関係(2点)

加賀藩領においては、肝煎に就任するに際して村民→十村→改作奉行→算用場奉行へと願書を出し、承認される必要があり、1点はその典型的なものです。

他の1点はそれより40年余り前の文化3年(1806)の史料で、肝煎に推された虎吉は、三辺屋理兵衛という高岡関町の町人の息子であり、町人が村の土地を買い集め(取高)、その村の村民となる(入百姓)ことが行なわれていたことが分かります。

この様な町人等の土地所有は禁止されていましたが実際には行われていました。しかし寛政12年(1800)から、天保8年(1837)までの約40年間のみ容認されており、本史料もその「合法的」な時期のものです。

上関村入百姓理兵衛持高 俣に譲渡願書(写)(部分)



4.用水関係(5点)

農業にとって最も大切な灌漑は、肝煎としては常に村政の最重要課題であったと思われます。これらは他村との「江代米(用水に関する代金)」や貫種(用水路)敷設などの取為替証文や書状などであり、その一例が詳細にたどることができます。

5.その他(4点)

上記史料の他にも、新開地の租税関係、庄川・千保川鮭役の他村との争論関係、また、修験道の勧進手形もあり近世の肝煎家の生活の様子が幅広く、浮かび上がってきます。



修験道勧進手形

これらは加賀藩の平均的な近世村方村政の一端が窺える好史料といえるものです。

竹林七賢人文衝立

樽谷清太郎は高岡市二番町に生まれ、高岡工芸学校彫刻科から東京美術学校(現東京芸術大学)に進み、昭和3年(1928)同校卒業。在学中より帝展入選を重ね、文展・日展にも出品・受賞。富山城址公園をはじめ、各地の記念碑・銅像などの原型を多数制作しました。

「竹林七賢人」は中国の故事で、魏晋交代の頃(3世紀)竹林に集まって酒をくみかわし、清談し、世事を忘れ清貧を楽しんだ7人の隠士(隠遁者)をいいます。

衝立の中央部上段には7人の賢者が竹林で談論する様子を描き、その下部には7株の竹を配し、衝立を支える左右の側面部には、上部に竹林、下部に1株の竹を意匠化しています。朱漆塗の衝立にレリーフ銅板を嵌め込み、周囲は布着せて補強された漆塗り枠に納められています。

平成14年新収蔵  
樽谷清太郎(1903～1973)作 昭和8年5月  
高さ91.2cm 幅61.0cm 奥行21.5cm



◆新収蔵品紹介(平成14年4月1日～平成15年1月31日現在)

購入	数量	分類	寄贈	数量	分類	寄贈者	寄贈	数量	分類	寄贈者
『富山市主催 日清産業大博覧会誌』	(1)	歴史	『時代屏風』	(1)	図書	出町睦子氏	第5回国内勲業博覧会記念盃	(1)	歴史	中川信子氏
『富山市主催 日清産業大博覧会協賛会誌』	◇	◇	高岡繁昌双六	◇	民俗	國本義郎氏	天神堂(付 天神・右大臣・左大臣)	◇	民俗	中橋八郎氏
『高岡産業博覧会誌』	◇	◇	澤田澤樓俣句掛軸(対)	(2)	歴史	澤田和夫氏	出征祝幕	◇	歴史	◇
竹林七賢人文衝立	◇	産業	澤田澤樓句掛 岩崎夜鶴画色紙	(1)	◇	◇	衣桁屏風(えもんかけ)	◇	民俗	古谷昭史氏
越中射水郡上関村村御印	◇	歴史	澤田澤樓句 短冊	(2)	◇	◇	『富山県伏木青年学校要覧』	◇	歴史	望月保氏
越中射水郡上関村村御印(写)	◇	◇	篠井竹の門からの年賀状	(1)	◇	◇	皇紀二千六百年[伏木尋常高等小学校 伏木女子青年学校卒業記念写真帖]	◇	◇	◇
越中射水郡大野村村御印(写)	◇	◇	萩原井泉水からの書簡	◇	◇	◇	『安居寺境内外名所旧蹟』	◇	◇	◇
上関村新開地納所方申付書	◇	◇	浦島孤島句稿	◇	◇	浦島秀夫氏	高岡名勝絵葉書(英文入)	◇	◇	◇
上関村千保川洪水に際し權役免除願書	◇	◇	黒田焼 浦島孤島句皿	◇	◇	◇	高岡公園絵葉書	(3)	◇	◇
上関村千保川洪水に際し權役免除願書	◇	◇	『お酒は黄桜』ポスター	◇	民俗	藤八屋酒店	『大日本全図』	(1)	◇	◇
上関村入百姓理兵衛持高俣に譲渡願書(写)	◇	◇	清酒「成政」ポスター	◇	◇	◇	『大日本老樹番付』	◇	◇	◇
上関村肝煎与三兵衛病死に付虎吉へ拜命願書	◇	◇	ホー看板「マルクテ」	◇	◇	◇	効能書ちらし片「実母散」	◇	民俗	◇
上関村用水貫種埋替に際し江代米代金取替証文	◇	◇	ホー看板「ヤマサ醤油」	◇	◇	◇	クラリオン8トラック・ダブル カセット・プレーヤー	◇	◇	◇
本津村領地へ上関村用水分水に付江代米代金取替証文	◇	◇	東芝「ウォーカー」	◇	◇	飛見立郎氏	明和八年高岡町図(復刻)	◇	歴史	◇
本津村領地へ上関村用水分水に付江代米代金取替証文(写)	◇	◇	ホー看板「ヤマサ萬年筆」	◇	◇	神保成伍氏				
用水分水に付調筆連印の為御裏書物遣わし願書	◇	◇	ホー看板「赤玉」ワイン」	◇	◇	◇				
江代米取替御裏書調書の為持替に対する札状	◇	◇	ホー看板「電球交換所」	◇	◇	◇				
濱地面地子米にては混雑に付引高承認通達書	◇	◇	ホー看板「ココロラ」	◇	◇	◇				
庄川・千保川鮭役請負争論に付願書(写)	◇	◇	だっこちゃん	◇	◇	◇				
修験道勧進手形	◇	◇	高岡市生産共進会記念絵葉書	(2)	歴史	中川信子氏				

郷土の歴史資料などの情報を求めています

歴史資料や生活資料は、社会の変遷や興亡の足跡を理解する上での貴重な文化遺産です。当博物館では、古文書・生活資料などの収集保存を行い展示に生かしたいと思っております。情報がありましたら、是非ご提供をお願いいたします。



## 平成15年度 展 示 紹 介

### ◆常設展「郷土の暮らしと文化」

4月1日(火)～平成16年3月31日(水)

高岡市は、江戸初期の開町以来、銅器・漆器をはじめとする伝統産業を生み出し、今日まで工商都市として発展してきました。特に明治期における高岡商家の商業活動は、全国的にみても特筆すべきものがあり、幾多の逸材を輩出してきました。

このような郷土の特性を当館収蔵資料を中心に高岡の歴史・民俗・産業や郷土の偉人達を紹介し、市民学習の場として公開します。

### ◆特別展「涅槃」<sup>NEHAN</sup> - 釈迦入滅のとき -

4月26日(土)～6月22日(日)

涅槃は、釈迦の入滅(死)をさす言葉として用いられ、弟子・諸菩薩・諸天をはじめ鳥獣達も駆けつけ、その死を悼んだといわれています。

涅槃図は、その様子を絵画化したもので、旅立ち行く釈迦の姿や周囲に集まった会衆の様子などが様々に描かれてきました。

釈迦入滅の2月15日(旧暦3月15日)には、真言宗や禅宗の寺院では涅槃会が催され、堂内に涅槃図を掛け、「仏道教経」が読経されます。また、この日は赤・青・黄・白などのネハンダンゴを魔除けとして参拝者にふるまっています。

本展では、郷土の寺院に伝わる仏涅槃図・彫刻の涅槃像・釈迦絵伝などを展示し、釈迦の入滅の姿を紹介します。



涅槃図(部分)  
繁久寺蔵(高岡市)



### ◆企画展「高岡の絵師」-堀川敬周とその弟子達-

7月12日(土)～9月7日(日)

堀川敬周(1789?～1858)は、高岡初の町絵師として活躍し、商業中心の高岡の町に情緒豊かな文化の花を咲かせました。堀上町の染物業・漆屋平助の二男に生まれ、片原中鶴町の堀蟻翁の養子となり画業を志し、京都四条派の東洋などに学び、山水・花鳥・人物画を修得しました。その後、高岡に帰り高田蕙圃など多くの弟子を育成しました。さらに仏画や俳画や、開町以来の伝統ある銅器・漆器の下絵・図案も作成し、今日にいたる高岡近代美術工芸界にも新風を吹き込みました。

本展では、堀川敬周とその弟子達の画業を回顧し、高岡初期画壇の潮流を展覧いたします。



花鳥十二月図屏風(左隻)  
堀川敬周筆 当館蔵

### ◆企画展「百万石の大工さん」

10月8日(水)～12月13日(土)

高岡には国宝・瑞龍寺や重要文化財・勝興寺など古い歴史を有する大寺院があり、それらはいずれも加賀藩御抱えの大工・山上家が携わりました。山上家初代善右衛門嘉広は他にも大岩山日石寺本堂や芦崎寺姥堂などを手掛け、加賀・能登では那谷寺・妙成寺・小松天満宮など加賀藩のお抱え大工として数々の仕事を残しました。また、加賀藩は山上家(建仁寺派)と近世建築の双璧をなす黒田家(四天王寺流)や、井波や氷見大窪などの越中大工も保護し、互いに腕を競わせて、幕府と肩を並べる程の高い建築技術水準を誇っていました。

本展では、勝興寺設計管理事務所の協力のもと、各種建築道具類や、金沢城の建築資料、金沢市立玉川図書館所蔵「清水家文書」建築図面などで、加賀藩の匠達を紹介します。

### ◆収蔵品展「くらしの民具」

4月1日(火)～4月10日(木)  
平成16年1月17日(土)～3月20日(土)

明治・大正・昭和に至る人々の暮らしの移り変わりを、当館収蔵の衣食住に関する資料を中心に、新収蔵資料も併せて展示し、明日の暮らしを考える機会といたします。